



# 鹽竈十福

発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号  
 志波彦神社 社務所  
 鹽竈神社  
 電話 〇二二三六七一六一(代)  
 FAX 〇二二三六五五五三〇  
<http://www.shiogamajinja.jp/>



ちちはは  
 父母が頭かき撫て幸くあれて

いひし言葉せ忘れかねつる

万葉集卷二十に収録された「防人の歌」の一首である。常陸国などの東国から遠く九州は筑紫・志岐・対馬へと大陸からの侵攻に備えて派遣された兵士たちの「防人の歌」には、遙に離れた妻子や父母への恩愛が詠まれている。「幸せになりなさい」と頭をなでてくれた父母の言葉が忘れられない、この東国なまりそのままの歌、その父母を慕う心根に、胸を突かれ涙が流れるのだ。一千二百年以上も昔の無名の人の歌をよんで、今日の我々が感激するなどといったことは、およそ他国では見られないことのようにだ。古代の王族や学者の思想や詩が残る国は多くある。しかし、名もない兵士や庶民の歌に感激出来る文化を持っている国は、類まれなることを日本人自身が意識していない。

牡鹿路の海川山は変らねど

我が家も流れ里は失せたり

ふるさとの澄み渡りたる大空を

父母と見上げた幼き日のこと

東日本大震災から一年ほど後に、巫女たちに大震災の心の記録として作歌を勧めた時のものである。二首をよみ味わうと、防人の歌と同様の静かでありながら深い悲しみに満ちていることが知れる。そしてそれは、映像に劣らぬ記録である。溢れかえる情報の中で生活する現代人の心の中にも、古代の日本人と同様の心性があることを知れば、己の命が遠い祖先から続いていることが自覚できる。言葉の力、短歌の徳性なのだと思う。

# 新嘗祭(産業振興大祭)十一月二十三日

来る十一月二十三日(木)新嘗祭(産業振興大祭)が斎行されます。

新嘗祭は、大神様のめぐみによって得られた一年の収穫を感謝する祭りです。

この日、宮中では天皇陛下自ら新穀を神嘉殿に奉られ、また、全国各地の神社でも神事が斎行されます。古来より稲作など農耕を生業の基幹とする日本民族にとって最も重要な神事の一つであります。当社では御神田において去る五月十三日に御田植え、九



地場産品を積んだ奉曳車

月十六日には抜穂祭を斎行し、稲穂を刈り取りました。

この稲穂をはじめ、鮮魚・蒲鉾・清酒・水産加工品・野菜・果実・菓子など多くの方々より奉納された塩竈の地場産品の数々が、当日実施される「初穂曳」で氏子たちの手で市内を奉曳され、御両社の御神前に奉献されます。特に農耕と殖産の守護神・志波彦神社では、神楽「朝日子舞」が奉奏され大神様に収穫の感謝の誠がささげられます。

# 裏千家献茶祭

十月五日

十月五日(木)、裏千家献茶祭が鹽竈神社左右宮において斎行されます。

当日は、裏千家家元・千宗室氏のお点前で濃茶・薄茶が点てられ、御神前にお供えされます。

「茶道裏千家淡交会宮城支部」(藤崎三郎助支部長)が主催する献茶祭は、十四代家元淡々斎宗匠と嘉代子夫人(仙台市出身)、また夫人の叔母であり養母であった伊藤幾久寿女史(号宗幾)が昭和五年四

月に献茶を行われたことに始まりです。

祭典後は社務所全館で茶会が催され、多くの門人が茶の湯を通じて交流を深めます。



## 第二十五回 初穂曳奉仕者募集

今年も実りの秋がやってまいりました。

ただいま鹽竈神社奉仕会(小島邦雄副理事長)では、老若男女を問わず「初穂曳」の奉仕者を募集しています。市民が一体となって大神様の恵みに感謝する初穂曳。参加費は無料です。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。



お申込・お問合せは社務所までお願いします。

# 七五三詣の御案内

七五三は、氏神様の御加護によって無事成長できたことを感謝すると共に、これからの生活を見守って下さる様お願いする大切な人生儀礼です。

三歳男女の「髪置」・五歳男子の「袴着」・七歳女子の「帯解」と、それぞれ節目の年齢を祝ってお参りが行われてきました。

十月一日から十一月末日まで七五三祈禱を受けられたお子様には記念品を授与します。御家族お揃いで御参詣ください。



# 志波彦神社遷座記念祭 並びに氏子崇敬会秋季大祭



竣工当時の志波彦神社

新社殿を臨時の雨儀廊で結び、浄間に警蹕が響き渡るなか志波彦大神の御神霊が遷座されました。翌二十九日には御遷宮奉祝祭が斎行され、地方長官・内務省高等官・地方高等官を含む六五〇名の参列者で境内は賑わったと伝えられます。

また鮮やかな朱塗の大鳥居は昭和十五年に完成し、現在も多くの参拝者を迎えています。

御社殿の造営より七十九年経た今年も、当社氏子崇敬会会員が秋季大祭として参集しました。

九月二十九日、志波彦神社遷座記念祭並びに氏子崇敬会秋季大祭が斎行されました。かつて志波彦神社は宮城郡岩切村（今の仙台市宮城野区岩切）の冠川のほとりに鎮座し、「延喜式」神名帳に陸奥国百座のうちの名神大社として記され、地域はもとより朝廷からも篤い崇敬を受けていました。近代には国幣中社に列格し、明治七年には鹽竈神社別宮へ合祀され、それから六十四年後の昭和十三年に神職・氏子崇敬者の悲願であった御社殿の造営が国費によってなされました。



現在の志波彦神社(拝殿)

その年の九月二十八日夜、鹽竈神社別宮より竣工なった

## 一森会総会

去る八月二十四日、当社神職養成所卒業生の同窓会である一森会（石川昇会長）の平成二十九年度総会が社務所大講堂において開催されました。当日は来賓を含め四十六名の会員が出席し、総会に先立ち物故会員の慰霊祭を石川会長齋主のもと齋行し、神社界に多大な足跡を残した諸先輩の御霊に追悼の誠を捧げました。

## 氏子青年会

全国氏子青年協議会  
全国大会に出席

昭和三十一年に発足以来、年三度の神輿祭をはじめ初穂曳など様々な奉仕活動を行っている氏子青年会（千田忠一会長）は、八月五日に開催された全国氏子青年協議会第五十五回定期大会茨城大会に出席しました。

同大会には全国各地の氏子青年会より約三百名が参加。大会後は歌手の相川七瀬氏のトークショーや、懇親会での

総会では各報告・協議が行われるとともに、役員の改選が行なわれ新会長には及川祐幸氏（宮城県・第二十八期卒）、副会長には菅原正明氏（岩手県・第三十二期卒）・渡邊市也氏（山形県・第三十九期卒）・富田好弘氏（福島県・第四十一期卒）がそれぞれ就任致しました。また、今期で会長を退くこととなった石川昇会長に対し神社並に養成所より感謝状が贈られました。

総会後、会場を移しての懇親会は、鎌名誉会長の特級昇和太鼓の披露、マグロの解体ショーなどが行われて大いに盛り上がり、会員らの交流が深められました。

翌日は、平成十六年に実施した奉曳行事の奉仕神社である鹿島神宮・香取神宮を正式参拝し、無事帰塩しました。

清掃奉仕  
九月三日に氏子青年会の活動の一環である清掃奉仕が実施されました。



清掃奉仕



感謝状の贈呈

された。当日は天候に恵まれ、千田会長以下大勢の会員に御奉仕いただきました。

進の祝賀会と併せて行いました。

# 講社だより

## 塩竈千人講講社祭

六月二十五日、塩竈千人講講社祭が鹽竈神社左右宮において佐藤今朝吉講長以下一五名の講員参列のもと斎行されました。

本年は左記の方々が永年勤続表彰を受けられましたので御芳名を御紹介いたします。

(敬称略)

- ◇六十年表彰  
牧田 みさ子
- ◇三十年表彰  
赤間 政彦
- ◇二十年表彰  
土井 吉喜
- ◇十年表彰  
渡邊 勝二・門間 光子



塩竈神楽

## 講社大祭のご案内

来る十月七日(土)より九日(月)にかけて講社大祭を斎行いたします。

県内はもとより、全国各地の講員の方々が大神様に報恩の誠を捧げ、家内安全・商売繁盛を祈願します。

期間中は神楽が奉納され、境内は大勢の参拝者で賑わいます。

- 〈神楽奉納団体〉
- 七日 栗原市 栗原神楽くりはらかみ
  - 八日 檜崎法印神楽保存会
  - 九日 塩竈神楽保存会
- (それぞれ午前九時より午後二時まで)



檜崎法印神楽

## 敬神婦人講だより

### 大年寺墓参

並びに研修旅行実施

去る六月二十日、恒例の大年寺墓参に併せて研修旅行を実施しました。

当社に縁の深い四代藩主綱村公の命日に併せての墓参であり、参拝後、伊達家第十八代当主伊達泰宗様より御挨拶をいただきました。

参拝後は埼玉県の二峯神社・秩父神社・寶登山神社を正式

参拝、更に秩父まつり会館や、長瀨を視察し帰路に着きました。

### 宮城県敬神婦人連合会 第五十七回総会開催

八月七日、当社を会場に宮城県敬神婦人連合会第五十七回総会が開催され一三九名が出席しました。

総会後には八重垣神社(亘理郡・藤波祥子宮司)により「震災から復興までの道のり」と題して記念講演が行われました。

## 養成所通信

### 集約講義

当養成所は九月二日から四日にかけて、神道学博士の中西正幸氏をお迎えし、集約講義を開講いただきました。

國學院大學大学院・客員教授で、神社本庁の教学委員を務められる中西氏には、三日間の講義で神道の概説論から神職の使命にいたるまで御教授いただきました。

施されました。

受入先の各神社の格段の御高配をいただき、日頃とは異なる実習内容は生徒にとって得がたい経験となったようです。

### 夏季神社実習

今夏、養成所の夏季休業に先立ち五日間の神務実習が実

- 三皇熊野神社(金山智紀宮司)
- 山中 里帆
- 盛岡八幡宮(藤原隆磨宮司)
- 金澤 空
- 戸隠神社(水野邦樹宮司)
- 佐竹 崇志
- 竹駒神社(千葉博男宮司)
- 寺島 成美
- 高山稲荷神社(工藤均宮司)
- 山崎 尚範



第 57 回 総 会

# 鹽 竈 会 総 会

当社と御祭神を同じくする神社の集い「鹽竈会」は、去る六月十二日に当社を会場に総会を開催しました。

参加者は十三名。総会終了後、山形県へ移動し山形観光物産会館、タケダワイナリー等を見学し、上山温泉に宿泊して懇親を深めました。翌日は上杉神社を正式参拝し稽照殿を拝観、帰路につきました。

平成二十九年度功労表彰者を御紹介します。

(敬称略)

宮城県大崎市  
塩釜神社(工藤順司宮司)  
責任役員 渋谷 正廣



功労表彰

岩手県九戸郡  
塩釜神社(里村勇雄宮司)  
塩釜神社敬神婦人会



別宮拝殿前にて

香川県丸亀市  
塩竈神社(瀧下富茂宮司)  
責任役員・総代会長  
富木田 誠

責任役員・総代副会長  
白井 壽一

長野県松本市  
塩釜神社(大澤明三宮司)  
福田 祐久  
渡辺 喜代子  
相原 良一  
相原 静江

## 仕舞・謡曲奉納

六月十八日、塩釜宝生会(大平眞悦会長)主催による仕舞・謡曲の奉納が左右宮拝殿において行われました。

祈願祭では、教授囃託岩井寛二氏による仕舞「竹生島」が奉納されました。  
舞殿では謡曲「七騎落」などが奉納され、参拝者を楽しませていました。

## 別宮祈禱太鼓修繕

鹽竈神社別宮での祈願祭に際し打ち鳴らされる祈禱太鼓が、この度修繕されました。

鶴田賢功氏(山梨県韮崎市)の志によるものであり、修繕なった祈禱太鼓の音は境内に響き渡っています。



修繕された祈禱太鼓

## しおがまさま 神々の月灯り

十月七・八日の二日間、塩竈市青年四団体連絡協議会の主催によるライトアップイベントが開催されます。

竹筒に立てたロウソクに火が灯され、境内が仄かな灯りに包まれるなか、古代笛が響きわたり、舞殿では琴・琵琶や雅楽の演奏が行われます。



拝殿での仕舞の奉納

## 塩竈市戦没者遺族会 慰霊祭

九月八日、塩竈市戦没者遺族会主催の慰霊祭が当社大講堂において斎行されました。

祭壇の両脇には、遺族会副会長川辺浩一・丹野洋子両氏による月見ヶ丘慰霊塔の英霊名簿の拓本が掲げられました。宮城県知事をはじめ、塩竈市長、塩竈市議会議長、県連合遺族会長ほか六十一名参列の下、神楽「浦安の舞」が奉奏され、日清・日露戦争より大東亜戦争で戦死した塩竈市の戦没者千五百四十四柱の御英霊の御霊に追悼の誠を捧げました。



慰霊祭

### 國學院大學指定実習

九月四日より十日までの一週間、國學院大學の学生を受け入れ指定実習を実施しました。

同大學の実習神社に指定される当社では、例年実習生を受け入れており、本年は神道文化学科四年生の山本和秀君（山口県）、清水大地君（神奈川県）、三年生の升形優太君（愛知県）、山根達大君（岩手県）の四名が社務所に泊り込み実習に臨みました。

実習内容は祭式や禊・鎮魂行法、奉製作業をはじめ、境内清掃、社頭での参拝者との応対や祈禱奉仕など。緊張感を持って熱心に取組んでいま

### 東北式内社顕彰会 総会開催

当社内に本部を置く東北式内社顕彰会は九月二十七日、東北歴史博物館を会場に今年度の総会を開催しました。

総会にあわせ、第九回講演会が行われ、塩田達也講師（東北歴史博物館副主任研究員／

した。

最終日には実習生自身で閉講奉告祭を奉仕し一週間の実習が無事終了した旨、御神前に奉告しました。

この実習がそれぞれの糧となり、将来彼らが斯界で活躍する事を期待します。



開講式での記念撮影

日本中世史)の講演を聴講。

神道・仏教・修験道など、中世東北の信仰の歴史がどのような変遷をたどったのか、最新の研究成果をふまえた講義に十七名の参加者らは興味深く聴講していました。

なお総会では、下半期に式内社をめぐる巡拝会を実施することが決議され、今後準備が進められる模様です。

### 博物館だより

#### 博物館実習実施

博物館では、九月四日から八日までの五日間にわたり、平成二十九年度の博物館実習を実施しました。

本実習は、学芸員の資格取得に係わるもので、今年度は東北学院大学より二名、秋田公立美術大学より一名の計三名が参加し、博物館活動についての講義のほか、各種資料の取扱い、記録作成方法や資料の梱包などの実習を行いました。

実習生らは、古文書や刀剣など実際の資料に向き合い、それぞれ真剣な面持ちで作業に取組んでいました。



博物館実習

#### 資料出品のお知らせ

仙台藩祖・伊達政宗公の生誕四五〇年にあたり、各施設では記念行事が予定されています。仙台市博物館においても十月七日から十一月二十七日まで開催される特別展「伊達政宗―生誕四五〇年記念―」では、当館より「謄本・三輪」(伊達政宗公自筆)、「慶長棟札写」、「御鑰(みかぎ)」の計三点を出品致します。



御鑰

また、開設三十周年を迎える多賀城市埋蔵文化財調査センターでは、記念の企画展として十月一日から十二月十七日まで、「多賀国府―古代の多賀城から中世の府中へ―」が開催されます。同展には、

当館より鹽竈神社中世文書計三点を出品致します。皆様お誘い合わせのうえ御観覧ください。

〈お問合せ先〉

■仙台市博物館

仙台市青葉区川内二六

〇二二(二二五) 三〇七四

■多賀城市

埋蔵文化財調査センター

多賀城市中央二二七一一

〇二二(三六八) 〇一三四



斯波家兼書下 文和 3 年(1354)



吉良貞経寄進状 延文 5 年(1360)

参拝記録

六月から八月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

六月

- 六日 神奈川県・寒川神社 長谷川潤氏・今野僚也氏
- 七日 東京都・府中市愛刀会 十一名
- 九日 仙台千人講話人会 七名
- 十日 全国氏子青年協議会 東北・北海道地区研修会 百二十名

- 〃 日本商工会議所 二十九名
- 十二日 鹽竈会 九名
- 十三日 北海道・白老八幡神社 四名
- 二十四日 國學院大學 城所俊哉氏
- 國學院大學院友会 今井亮氏

七月

- 十一日 伊弉諾神宮氏子総代会 十六名
- 十三日 村松俊明氏
- 〃 宮崎県・宮崎神宮職員研修旅行 一班・十二名
- 二十五日 宮城野雅楽会 二十五名
- 二十八日 宮崎県・宮崎神宮職員研修旅行 二班・十四名

八月

- 二日 日本吟剣詩舞振興会・多田正満氏他 一名
- 七日 宮城県敬神婦人連合会 一三九名
- 八日 長野県・塩竈神社辰野奉賛会 二十一名
- 十七日 栃木県・日光二荒山神社 一班・二十名
- 十九日 栃木県・日光二荒山神社 二班・二十名
- 二十四日 一森会 石川昇会長他
- 二十五日 岩手県・久慈市神社総代連合会 二十三名

ご結婚  
おめでどう  
ございます

六月から八月にかけて、当社にて華燭の典を挙げられた方々を御紹介いたします。(敬称略)

六月

- 宮城郡 遠藤 利也
- 宮城郡 田中 優子

- 塩竈市 大山 裕人
- 仙台市 北村 歩美

- 登米市 飯塚 定信
- 群馬県 四方田 有子

- 宮城郡 渡邊 翔
- 山形県 工藤 詩織

- 仙台市 川上 謙
- 山形県 石原 由梨

- 東松島市 尾形 圭一
- 塩竈市 千葉 裕子

- 石巻市 森 佳宏
- 石巻市 田中 杏奈

- 福島県 岩間 雄平
- 岩手県 高橋 春奈

- 山形県 柏倉 智史
- 千葉県 佐藤 直子

- 東京都 古川 慧太郎
- 遠田郡 加藤 陽子

- 仙台市 佐藤 慎二郎
- 仙台市 菊森 かおり

- 栗原市 吉尾 秀一
- 角田市 酒井 千春

- 愛知県 梶田 智成
- 塩竈市 佐々木 利恵

- 福島県 鈴木 裕紀
- 福島県 寺島 智恵美

- 愛知県 石田 弘
- 塩竈市 今野 裕子

- 岩手県 小野 満
- 亘理郡 境 道子

- 東京都 大類 博史
- 岩手県 寺山 ふみ

- 登米市 阿部 彰太
- 塩竈市 吉木 史恵

- 黒川郡 石川 篤
- 仙台市 佐藤 弘美

- 七月 仙台市 只野 量願
- 塩竈市 石森 亜美

- 多賀城市 柴田 祐次
- 多賀城市 佐藤 ゆかり

- 亘理郡 横山 大将
- 大崎市 栗生 朋恵

- 八月 大崎市 高橋 和正
- 大崎市 伊藤 弓生恵

- 仙台市 千田 芳樹
- 千葉県 中村 香奈子

- 仙台市 関根 崇人
- 宮城郡 佐々木 恵里



大漁満足	海上安祈願	十二月 一日	嘉津良比祭	初穂	新穂	七穂	明穂	講社大祭	裏千家献茶祭	十月 五日	裏千家献茶祭	志波彦神社月次祭	鹽竈神社月次祭	御釜神社月次祭	曲木神社月次祭	朔日	祭事暦 (十月から二月まで)	国家安泰	五穀豊穣	家内安全
		二十三日	天長祭							十五日	七穂									

### 授与品案内

「御出幣式」清め砂

鹽竈神社例祭では、御本殿より大神幣を出し、隨身門前で振り奉って国家の安泰を祈念する「御出幣式」が執り行われます。神社では、大神幣の進路に敷かれた清浄な砂を



清め砂

「清め砂」としてお頒ち致しております。ご自宅の敷地に撒くなどして、お清めにお使いください。

初穂料 金一、〇〇〇円也

### 結び守

お二人の縁が末長く続きますよう祈願した「結び守」を奉製いたしました。御夫婦やカップルでお受け下さい。十二月十五日より授与予定です。

初穂料 金一、〇〇〇円也



結び守

### 神宮大麻頒布

十二月二日(土)より約十日間にわたり、当社神職が塩竈市内各戸を訪問して伊勢の神宮の御神札「神宮大麻」と平成三十年の神社祭事暦、御神像(お正月様)をお頒ちします。

お正月を迎えるにあたり氏神様のお札と神宮大麻を奉齋し、朝夕に御家族そろって神恩に感謝しましょう。

なお年内に御不幸があつた際でも、服喪の期間(最長で五十日)を過ぎれば神棚のお祀りを再開されれば差し支えありません。御不明な点がありましたら訪問の際などにお問合せください。

### 銅板奉納者芳名

六月から八月にかけて多くの方々より銅板の奉納をいただきました。(敬称略)

六月

青森県 竹内 裕一

七月

栃木県 齋藤 喜正  
ほか一二四名

八月

兵庫県 塩谷 将規  
ほか一五六名

### 帰幽

丹野 六右衛門 殿  
塩竈市宮町

当神社総代丹野六右衛門氏は六月三十日逝去。享年七十二歳。

丹野氏は平成二十五年に総代に就任され神社の護持・運営に御尽力されました。ここに謹んで御冥福をお祈りいたします。

### 赤雲

日照不足と長雨が続き、農作物への影響が心配されています。実りの秋を迎え初穂叟が間近となりました。皆様の御参加をお待ちします。

QRコードを作成しました。当社のホームページは、こちらからも御覧いただけます。どうぞ御利用下さい。

(慶)



### 文芸欄

熱き茶を口にしている夜の秋  
釣竿の先にいたずら秋茜  
卓上のグラスの影や夜の秋  
上掛けを手探りして引く夜の秋  
造艦の碑茅花流しかな  
波音の薙を揺らす夜の秋  
白波の免駆ける晩夏かな  
美しき茸生えをりけもの道  
青鷺に見られてゐたり舟下り  
八月は空し老境に入る暮し

大友セツノ 守  
塗 守  
佐藤千代子  
石川 卓  
栗田 昌子  
及川 源作  
堀籠 政彦  
横田みち子  
今田須美子  
山田 桃晃